

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

黄土高原ワーキングツアー日誌より... P 2
干ばつ、水害をのりこえて P 4
チコロナイ第2期順調なスタート P 6



アンズを植えるための穴を掘る。30cmも掘れば土は凍っている (天鎮県楊家庄村で。撮影：橋本紘二)

GENに参加するには

会員・会報購読者になる
自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
ワーキングツアーに参加する
ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc.

あなたのご参加を待っています!

1996・4

45

今回のワーキングツアーは総勢33人という大所帯で、恒例の座談会も時間と場所がなく断念せざるをえませんでした。全体のように、日誌の一部を抜粋してご紹介いたします。全文をまとめたものを作りますので、参加者以外でご希望の方は、事務所までご連絡ください。



陽高県守口堡村で万里の長城をバックに

3月26日(火) 岡村誠司記

何度か参加されている方の話では毎回何らかのトラブルが発生するそうで、明日以降が心配(少し楽しみ)です。

私は今回初めての参加で、かつ30人の大人数とあって、世話人の方にご迷惑をかけないようにがんばりたい。11日間のうち労働が3日間と、少しものたりない気がしますが、もしものたりなさを感じたらぜひまた参加したいと思います。私は会社員なので次回いつ参加できるかわかりませんが、70歳代の方がたくさん参加されており先は長いので楽しみです。

3月27日(水) 工藤寛之記

朝、7:30。ロビーに集う人々の表情にまだ疲れは見えない。殊に、10代のメンバーの顔は生き生きとしているように見える。ともあれ、道中を導いてくれる火車、鉄路的旅が今回は昼間の行程だということもあって、それぞれ、汽車旅に寄せる期待は大きいようである。が、その前に中華人民共和国の象徴(国章にもなっている)天安門と、天安門広場に立ち寄ることにする。TVで見慣れた空間とはいえ、直にそ

の地に立ってみるとその広さにただただボーゼンとするしかない。タコ上げに興じる人、何か体操をしている小学生、観光客、訓練中の公安などなど...

3月28日(木) 久保愛子記

中国大地の砂漠化過程、黄土の状態、自然の成り立ち...。その昔、めったやたらに木を切り倒していった時代、歴史がある。自然を粗末に、無視してしまっていたための結果が、ここに、存在している。見るに忍びない姿、木の無い山々.....。

どうか、“大地”よ、生き返ってほしい。私たちが、これから植える木を、どうか育ててほしい。と、強く願わずにはいられません。

私たちが犯してきた罪の深さと、大地の尊さを感じ()

まだ日本に帰いたくない...

1996 春の黄土高原WT日誌より

ながら、あらためて、普段の生活が自然に対してあまりにも無意識であることを反省しています。

3月29日(金) 前田俊雄記

杏の苗木を1人1本あたり植えつける。自分のは大丈夫と思いつつ、もしみんなのが根づいて自分だけだめだったらと不安がよぎるが、ままよ、なんとかなるさと、勝手に解釈することにした。それにしても直径60cm、深さ60cmの円筒形に穴を掘るのは辛い。何か機械があればはかどるのと思った。

11時50分、全員集合して作業を終わり、各班に分かれて、それぞれの家に昼食をごちそうになりに行く。われわれ「マツ組」は、銭さんという人の家だった。オンドルのよく利いたところで食べる昼食は最高だった。銭さん夫婦と奥さんの妹さん、それに息子さんまで来て、「食べる、飲む」とすすめ

られ、みんなで必死に食べた。それにして最高のもてなしだった。

3月30日(土) 谷本美穂記

希望果樹園といったユニークな計画に興味をもった。是非成功して、子どもたちの学費にも役だてもらいたいと思う。また、乾燥と低温でなかなか植物が根付かない土地での植樹の大変さと、土地の人の苦労を察することができた。それから、忘れてならないことは、県長が話のはじめに、こういうことがあったときちゃんと日本人に知ってほしいとして話されたこと。ここ天鎮県は1937年7月7日の盧溝橋事件直後戦争で大きな被害をうけた。旧暦8月8日から日本軍は3日間にわたり殺戮を繰り返して、3300人を殺害し、村人のほとんどがなくなった村もあった。歴史は実際に存在し、そしていまでも人々の心の中に生きていることを私たちは忘れてはならない。(中略)

最後に、山西省に留学中たまたまこういう活動に参加する機会を得られたことをありがたく思います。(中略)中国を理解するのに非常に貴重な機会となりました。農業や林業の専門知識

はありませんが、これから興味を持って勉強していきたいと思います。

3月31日(日) 東美千代記

外国人なんて来ないし、日本人も日本軍が来て以来だと言われ、とにかくめずらしいものが来たといわんばかりに村中の人? が家から出てきて見物に来るようなさわぎである。人が集まれば、歌を歌いあったり、おり紙をつくって子どもと遊んだり、筆談したり、庭のあちこちで中国と日本の人と人との交流が始まった。不思議なことに、中国の人たちに混じって中国側からこのお祭りさわぎを見ている、ちっとも違和感がないし、言葉が通じなくて適当に雰囲気やとりをしてもなんとなくホッとするのは、やはりどこか同じ血が通うような本質的な共通点があるからかなあ、同じモウ古斑をもって生まれた者同士なんだなあ、等



と考えたりした。

4月1日(月) 橋本紘二記

今日、植えた木はアンズの木だった。植えた畑は村のなかでも比較的土壌条件のよい畑だった。自分の家の食べるものも少なく、中国全体での食糧不足だということに、穀物畑をつぶしてよいものなのか、ちょっと矛盾も感じたが、先日の県長とのシンポジウムで、県長が、「植林は緑化運動であるが、それと共に、建築材の生成でもあるし、果物を植えるのは農民たちの現金収入のためでもある」と現実的な観点での話があり、私もとても共感できた。

4月2日(火) 紙谷淳子記

途中、馬氏の故郷の村で、かみきり虫を発見。見ているだけで背中がゾクゾクするのに、上田団長をはじめ、今村さんや副島さんらたくさんの方が食べていた。副島さんいわく「この虫を食べると不老長寿！」工藤さんいわく「口のなかで虫がおどる」。もし、これからの人生、かみきり虫と出会ったならば、うーん、食べてみようかなあ?!

その後しばしばバスにゆられ、三嶺村で30分間見学。高見さんいわく「道路使用料たった2.5元(?)でこの景色を見ることができるのは安いもんだ」との言葉どおり。なんともすばらしい絶景であった。私好みの景色(景色という一言ですましてしまうのはなんとも惜しい!)である。この口では言いあわすことのできない、「百聞は一見にしかず」ということわざがよく似合



天鎮県油房窟村でアンズの木を植える紙谷さん(左)と仲埜さん(右)

うこの村をカメラにおさめようとしたところで - ハブニング!! カメラの電池が切れてしまったあ。なんとも残念。

4月3日(水) 竹田芝河子記

大同のしめとして、最後に地球環境林センターへ行った。広く整備してある土地にたくさんの木が植えてあるのを見てとてもしあわせを感じた。あの土地は、以前小老樹の林だったそう。土はしっとりとしていて、水路にもなっていた。雨に弱い黄土とは全くちがうものになっていた。小老樹の作った土、木々の作った土は本当に生きものにやさしかった。多量の水がどこから来るのか張さんに聞くと、市民の生活排水だそう。水もリサイクルしているなんて感動だ。

今夜は夜行で北京へ向かう。(中略)大同の駅で手をふっている高見さんと王さんを見て「夏も来よう」と決心した。着いた時とはまるでちがう気持ちで大同駅をあとにした。

4月4日(木) 仲埜亜紀子記

やっぱり、自分の身をもって体験しないとわからない貴重な経験ばかりだった。何の知識もなく、役にも立たない私でも、このツアーに参加することによって、現実の農村を見れたし、少しでも現状を知ることができた。そして農村の人々の笑顔にふれることができた。そのことがとても嬉しかった。

最初の方で「50年、100年後のために木を植えるんだ」という話をきいた。気の遠くなる話。すぐに成果を追い求める私にとって、頭をガツンとやられるような話だった。地球規模で考えていることもGENのスケールのかさを感じた。(中略)

かなりの覚悟をしてきた旅だったけれど、大変快適な旅でした。トイレもちゃんと困りがあつたし、泊まるところはきれかったし、ごはんはおいしかったし、



昨年の水害でくずれたヤオトン。今年再建する予定だ(陽高県張園村で。撮影:橋本紘二)

絶対またこのツアーに参加したいです。次回はたくさん芸を身につけて。

4月5日(金) 長坂健司記

今回の旅の最大の収穫は、「農業」について学ぶということの大切さを肌で味わったことだろう。実家で祖父の代まで農業をしていたとはいえ、実際なにかを作ったことがあるわけでもなく、本やTVから得た知識しかもっていなかったため、正直なところ実際の生活と密着した学問をやっているという意識がなかった。ところが、黄土高原に広がる農地を見て、これだけ広い土地をひたすらに耕す農業というものの雄大さ、崇高さに感動した。農業は奥深い。

僕自身、はずかしいことに植物や農作物について何も知らないことが明らかになってしまった。日本に帰ってから、春だし、あちこち歩き回りながらいろんな植物についてもっと勉強することにします(宣言!)

今回の旅行で一番心配していたことは、食事でも、気候でもなく、「30人もの年齢幅のある団体のなかで僕はうまくやっっていけるのか?」ということだった。今まで、旅行といえば1人が、気のあう学生同士でのものだったので、今回のような旅は経験したことがなかったからである。しかしながらこの心配も杞憂におわった。いろんな人からいろんなことを学べてとてもよかった。

干ばつ、水害をのりこえて 多様化する黄土高原の緑化協力

GEN事務局長 高見 邦雄

雨をよんだワーキングツアー

3月から4月にかけて、緑の地球ネットワークと全ジャスコ労働組合とが派遣した2つのワーキングツアーが大同の緑化協力地を訪れ、地元の人たちと一っしょに植林作業をし、交流を深めました。2つの団に現地合流を含めると70人近くにもなり、私たちの協力が急速に広がりつつあることを、地元の人たちも強く実感したものです。

私は3月中旬から現地にはいりましたが、去年の10月以降まったく降水がなく、去年につづく大干ばつをみんな恐れていました。春耕の季節を迎えていたので、強い西風にあおられ、黄砂が舞い上がります。去年の春が記録的な大干ばつであったうえに、夏の大水害、秋の早霜とトリプルパンチをうけただけに、不安が極限まで高まっていたのです。

農民にとって自然災害がつづくことほど恐ろしいことはなく、しかも干ばつは2年3年とつづくことが多いからです。そしてことしは大同でも春の訪れが遅く、緑の地球ネットワークの団が

訪れた4月初旬まではどこでも大地は凍結したままでした。

しかし3月25日ごろに、大同市北部の一带と山間部にかなりの降雪があり、みんなホッとしました。大同県などではこの雪のあと、予定を早めて、大面積のモンゴルマツの植えつけを一気にすませました。

そして全ジャスコ労組の団の大同での日程の最終日、4月12日の朝方から雨が降りはじめ、夕方までつづきました。この時期の雨は、植林のためにも農耕のためにもとても貴重で、地元の人たちは「春の雨は油より貴重だ」というくらいです。この雨は大同市の全域で降ったようです。

この雨のおかげでことしの植林は飛躍的に活着率が高まるでしょう。そういう紹介をきいて、バスのなかに喜びの拍手がひびきました。あう人、あう人が、みなさんは植林作業の協力をきただけでなく、雨までつれてきてくれましたと、あいさつしました。

厳しいことを言える関係に

大同での協力もことしで5年めには



春の雪は天の恵みだ

いって、おたがいの信頼関係もうんと強まっています。私も今回は主張すべきは主張し、批判すべきは批判することにしました。日本からきた団の人たちから、高見さん、あんな厳しいことをよく言いますね、といわれたことも1度や2度ではありません。

大筋では、りっぱな協力で発展してきていると思います。これからの私たちの協力活動の牽引力となる地球環境林センターも、経験の豊富な定年退職者と大学をでたばかりの若い人たちのチームができ、活動を本格化させようとしています。立花代表の提案にもとづいて、軽石の試用や沙棘などの改良実験もはじまりつつあります。

活動が多様化し、充実してくるにしたがって、私たちも日本国内でそれを長期に支える体制を準備しないとイケません。みなさんのご協力をせつにお願ひするしだいです。

緑の中国 歴史篇 3

上田 信（立教大学助教授）

中国古代の殷や周の時代には、黄河は「河」と呼ばれ、その水はけって黄色くはなかったようです。現在の黄河が黄色いのは、黄土高原から大量の黄砂が流れ出しているからです。もし黄土高原が緑に覆われていれば、雨が降るたびに土砂が崩壊し流失することもなく、黄河に流れ込む黄砂の量も少ないでしょう。

周の時代の歌謡集である『詩経』には、周王の業績を称えた歌も載せられています。そのなかに、黄土高原の西部を中心に生活していた遊牧の民を征伐に出かける王の姿を描いた「出車」という歌があります。ちなみに「車」とは戦車のことです。それには、「春

の太陽ほかほかと、草・木はあおく茂っている。ウグイスの声は穏やかに、ヨモギをたっぴり摘み取ろう。敵の兵をひっとらえ、いまぞ国に帰還する」とあります。

当時、いくさには春に出かけたでしょう。周の王室が置かれた関中盆地



森と草原がはげ山と段々畑にかわるにつれ、黄河の水は黄色く濁っていった

から黄土高原に兵を進めたわけですが、あたりは一面の緑であったようです。小高いところにはチョウセンヤマナラシ・シラカバ・クヌギなどの落葉広葉樹、コノテカシワ・ビャクシンなどの針葉樹が茂り、平坦なところには草原が広がっていたと想像されます。周と対抗した遊牧民は鬼方・昆夷・嚴允などと呼ばれていますが、いまの延安などの地において、森つきの草原で羊や牛などを放牧していたわけでは

しかし、農耕の技術をもった周の人びとは、遊牧民を草原から追い出しては開墾し、次第に農地を増やしていきました。耕地が手狭になると、次は丘陵地の森林を伐採したのでしょうか。黄土高原の森林と草原が姿を消すにしたがって、土砂の流出量も増え始め、「河」は黄色くなっていきました。



もっと自然を知ろう 〈1〉

GEN代表・花園大学教授 立花 吉茂

はじめに

この頃「生態系」とか「多様性」とかいう言葉がよく登場するようになった。「自然」という言葉とともに解っているつもりだが、さて説明しようとすると難しい言葉である。前号で「しぜん」と「じねん」のことを書いたが「半自然」という言葉も登場したように、「生態系」も「多様性」もつきつめて考えると、いろいろあるようだ。まず生態系であるが、「魚の生態系」とか「鳥の生態系」などというものは存在しないことをまず知っていてほしい。「生態」と「生態系」は大変な違いなのである。「魚や鳥の生態」というのはあっても「生態系」はない。「生態系」は地球上の自然のシステムであって、人が荒らしてなければ地球上のどこにも存在するものである。米国の生態学の教科書の第1ページに世界でもっとも単純な生態系の例としてラブランド地方の「ヒト」と「トナカイ」と「コケ」との関係が書いてある。北極に近いラブランド地方は氷に閉ざされたところなので、樹木も草も生えず、夏のあいだある種の「コケ」だけが一面に繁茂する。この「コケ」を食べる「トナカイ」が住み、その「トナカイ」を食糧とする「ヒト」が住んでいる。この三者はお互いに「持ちつ、持たれつ」の関係にあり、一定の数量的バランスのもとに太古から生き続けている。どれか一つが増えると他の一つが減り、もう一つが増えて、減ったものがやがて回復して平衡を保つ。このような自然のシステムをエコシステム（生態系）という、とある。実際には目に見えないバクテリアなどの微生物も棲んでいるはずであるが、教科書だけに解りやすく説明してある。日本の生態系は先進国のなかでは群を抜いて複雑な「生態系」である。それは熱帯雨林につく複雑な森林の国だからである。

多様性とは

広辞苑には「多様」というのはある

が「多様性」はでていない。これも生態系と同じく英語からきた言葉かもしれない。とにかく「いろいろある」という意味だが、英語の語源は「異なっている」「違う」ということからでている。「多種多様」ににているが少し違う。一種でも多様性は存在するからである。それは個体レベルでも「多様性」が存在するのである。

最近『生命の多様性』という本を読む機会があった。著者はアリの社会学を研究している生物学者であるが、生物の多様性について広範に興味深く解説していて、とても面白い「読みもの」であった。「多様性」をとことん追求するとメンデルの遺伝の法則やダーウィンの種の起源にまで行きついてしまう。首の長いキリンだけが高い樹木の葉を食べることができて生き残るとか、個体変異や進化論までもが絡んでくる。しかし種内変異や種の多様性の話はさておいて、森林の多様性について今年の黄土高原のワーキングツアーでの体験をお知らせしておこう。

山西省の北東部にある「自然保護区」のカラマツ林を見る機会があった。畑や草原ばかり見ていた目には、この単純なただ一種だけの単層構造の森林が、実に「多様性」に富むように見えたから不思議である。

その林の林床には落ち葉がたまり、ナデシコやカラマツソウなどの美しい草花が一面に咲いていて、黄土ばかり見ていた目には「なんとすばらしいお花畑だろう」と思ったものである。落ち葉がたまると、土壤微生物の種類も増えるだろうし、当然より複雑な「生態系」が成立し「多様性」が増大するだろう。現実にはそこには黄土高原に来て初めてアリの巣が見られたのであった。

砂漠 草原 単層林 多層林 とすすむにつれて植生の「多様性」は増大する。またそのそれぞれの植生のなかでの「多様性」は、科や属や種のレベル

予告!!

1996年夏の 黄土高原ワーキングツアー

黄土高原ワーキングツアーも回をおうごとに参加者がふえて、嬉しい悲鳴をあげています。もっと作業がしたかったといわれることが多いのですが、農村にはいって農民と交流できる、というGENのツアーならではの特長はみなさん満喫しておられるようです。

今年の夏は、下記の要領でと考えています。日程・費用とも確定ではありませんが、次号できちんとご案内いたします。夏の計画をたてるごとき思い出してください。

A班 7月25日(木)～8月1日(木)

一般185,000円、学生175,000円

B班 7月25日(木)～8月4日(日)

一般200,000円、学生190,000円

また、秋にも派遣を考えています。10月初旬を中心に、1週間程度の予定です。こちら、決まり次第ご案内いたします。お問い合わせはGEN事務所まで。



カラマツの林には枝や落ち葉がたまり、下草もみられる

で「生態系」の複雑さ（単純さ）に応じて「多様性」が存在する。杉の木ばかり植えられた植林地に「多様性」が少ないのは「ヒト」のせいである。自然のある場所へ入ったら「多様性」という複雑な自然を見直してみませんか。

ナショナルトラスト 『チコロナイ』

第2期計画 順調なすべりだし

第1期に引きつづき、昨年12月10日より第2期計画の募金活動が始まりました。4月8日までで87件、973,000円の寄付が寄せられました。第1期からの繰越金764,979円と合わせて1,737,979円になります。第2期の募金目標は2年間で700万円ですから順調なすべりだしと言えるでしょう。

寄付を寄せられた方々は、約半数が第1期からの人で、新しくチコロナイの輪に加わった人は41人です。1月に大阪で開催した、菅野茂さんの講演会に参加された人からもたくさん寄せられました。たいへん嬉しく思います。アイヌ新法や二風谷ダムのことが新聞

やテレビで大きく報じられ、アイヌ民族をとりまく環境が大きく変化している今、私たちチコロナイの運動もますますその真価が問われています。第2期の募金目標を達成するためにも、チコロナイの輪をますます広めていくためにも、おおくの方々の積極的な参加を呼びかけます。第2期用の新しいリーフレットもできましたので、まわりの方々にご紹介下さい。下記に連絡下さればお送りいたします。また、ワーキングツアーなどの二風谷現地研修や、大阪でのチコロナイ学習会とアイヌ語講座も定着してきましたのでどしどし参加して下さい。みんな

で質、量ともに、形も、内容もすばらしいものにしていきましょう。

連絡先

武田繁典 〒546 大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL/FAX.06-704-7720)

貝澤耕一 〒055-01 北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL.01457-2-2089 FAX.01457-2-3991)

郵便振替：00900-2-52024「チコロナイ」



チコロナイ学習会のご案内

日時：5月25日(土)16時～18時

場所：GEN事務所

テーマ：『チコロナイ学習会の方向性を探る!! 第2弾』

問い合わせ：円満堂(えんまんどう)修治

TEL/FAX.078-592-8466

参加費：100円

広く一般からの参加をお待ちしております。

チコロナイ・アイヌ語講座 - いやでもわかるアイヌ語 - 第2回

日時：5月25日(土)14時～16時

資料代：1期(6回分)で2000円

問合せ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)

場所：GEN事務所 (JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅徒歩3分、TEL. 06-583-1719)

チコロナイ学習会

発足1周年をむかえて

チコロナイ学習会スタッフ 円満堂 修治

先日のチコロナイ学習会(4/13)は『チコロナイ学習会の今後の方向性を探る!!』と題し、内容の一層の充実を図るため参加者全員で「これからどんなことをしたいか」「どんなことができるか」を少し真剣に考えてみました。といっても、アイデアをゲーム形式で出し合ったり、そのアイデア数の勝負をしてみたりと、案外みんな楽しみながらでしたけれど……。では、そのでできたアイデアをかいつまんで、いくつか紹介してみたいと思います。

- ・読書会
- ・アイヌ新法についての討議
- ・各国の先住民族の勉強会
- ・日本の古代とアイヌ民族の関係を調べる
- ・アイヌ民話とその真意を考える
- ・アイヌの木彫りを教わる
- ・人と自然のかかわり方について話し合う
- ・ボランティアのあり方について話し合う
- ・樹木の名前をアイヌ語で覚える
- ・自然との共存についての学習会
- ・各地域団体との交流 ……などなど。

どうでしょうか。本当にいろんな意見がでてきて、少し驚いているぐらいなのですが、でもこれでもほんの一部(約十分の1)にすぎないんです。すごいですね。ところでもし、これを読まれた方で、「こんなことしてみたらどう?」だとか、「こんなことするんだったら、私も参加する」とひそかに思われた方。次会学習会に来ていただければまだ間に合います。ぜひその貴重なご意見をお聞かせください。

さて、次会学習会では、これら多くのアイデアから条件をつけていまの学習会でできることを絞り込んでいく作業をみんなでします。いわば具体化する作業ですが……。

これからは「みんなで作りあげていく」ということもチコロナイ学習会のひとつのテーマとして取りくんでいきたいと考えています。みなさんの参加をお待ちしています。

二風谷ダムを考える会のお知らせ

GENチコロナイ部会 武田 繁典

すでにマスコミなどでご存じのとおり、北海道平取町二風谷で、北海道開発局が進めてきた二風谷ダムに水を試験的に入れる試験湛水が4月2日から開始されました。

しかし、このダム建設には二風谷のアイヌ民族で、ダム用地として土地を強制収用された萱野茂さんと貝澤耕一さんが「アイヌ民族の文化を破壊する」と反対しています。おふたりは、収用決済を取り消すよう札幌地方裁判所に行政訴訟を起こし、さらに国に対して民族の先住性に対する判断を求めています。その裁判が続いている中、北海道開発局は試験湛水を強行しました。

3月24日には二風谷の街頭で現地集會を行い、おふたりは「アイヌの意思を無視して湛水するのか!」と悔しさに声を震わせ、二風谷ダム訴訟弁護団の三津橋さんも国家権力の不当性を強調しました。

私たちは、ナショナルトラストの方法で山林を取得し、二風谷のアイヌ民族の方々と一緒に、森林の再生、復活をめざしてチコロナイの運動を始めました。そして、夏のワーキングツアーなどで何度も現地を訪れた時、二風谷の雰囲気にも似つかわしくない巨大なダム工事の現場を見てきました。そして、何かをしなければ、何ができるのかと考えてきました。

今回、貝澤耕一さんが来阪される機会に合わせて、「二風谷ダムを考える会」を下記のように開きます。

二風谷ダムのこと、アイヌ民族のこと、アイヌ新法のことなど、すでに知っている人も、まだ知らない人もできるだけ多くの人に参加していただき、一緒に考えてみたいと思います。

日時：6月14日（金）午後6時30分～8時30分

場所：大阪市弁天町市民学習センター講堂（JR・地下鉄弁天町徒歩3分）

主催：「二風谷ダムを考える会」実行委員会

行委員会

協力：貝澤耕一さん

後援：二風谷ダム裁判とつなぐ会（札幌）

連絡先：武田繁典

〒546 大阪市東住吉区今川6-2-6（TEL/FAX. 06-704-7720）

参加費：500円（資料代ふくむ）

なお、実行委員会に参加して下さる個人、賛助団体、個人として協力下さる方々を募集しています。連絡をお待ちしています。

署名運動にご協力を

また、上記に関連して、萱野茂、貝澤耕一、二風谷ダム裁判弁護団一同、二風谷ダム裁判とつなぐ会の署名協力の依頼が届きました。「二風谷ダム裁判とつなぐ会」は、会報27号（1994・6）でも紹介した札幌の市民団体です。

署名は、「二風谷ダムの建設・運用を取りやめ、『アイヌ民族を先住民族』とみとめることを求める要請書」というものです。ご協力下さる方は署名用紙を送りますので武田繁典までご連絡ください。

ナショナルトラスト『チコロナイ』現地研修 第3回 二風谷ワーキングツアー ご案内

一昨年、昨年に引き続いて、今年も8月に第3回二風谷ワーキングツアーを計画しています。詳しい予定は次号に掲載しますが、おおよそ次のとおりです。夏の計画の中に組み入れて参加してみませんか。

日時：8月16日～21日（現地集合、解散）

場所：二風谷、富良野

定員：20人（ただし、全行程に参加できる人）

費用：集合から解散まで5万円（予定）

内容：東大演習林、チコロナイの森、博物館見学、山・畑仕事、木彫り・刺繍体験、チブサンケ参加、交流等。

なお、予定変更の可能性もありますので、武田繁典（TEL./FAX. 06-704-7720）までお問い合わせください。



枝打ち材の押しピン、『樹の恩恵』に姉妹品

以前ご紹介した枝打ち材でつくった押しピン、『樹の恩恵』に姉妹品ができました。萱野茂さんの講演会のときにご好評をいただいた押しピン（4本セット500円など）のほかに、『そまの番人』の人形（800円）、ミニチュアのテーブルやいす（400円から）など、インテリア小物としてもおしゃれ。自然空間建築研究所の山田信行さんの企画で、売り上げの一部をGENに寄付していただいています。販売して下さるお店もさがしています。お問合せはGEN事務所まで。





GEN講演会

環境・社会・人間

- 混迷する21世紀を前に -

環境問題が急激にクローズアップされてきたのはこの10年ほどのことです。その問題にずっと以前から取り組まれてきた榎田劭さんに、こんにちの人と環境の関わりを語っていただきます。

日時：5月15日（火）18時30分～

場所：大阪市立阿倍野市民学習センター（地下鉄谷町線「阿倍野」駅7番出口すぐ、JR・地下鉄「天王寺」駅 / 近鉄「阿倍野橋」駅より徒歩8分、あべのペルタ3F TEL. 06-634-7951）

講師：榎田劭さん（精華大学教授）

参加費：700円

問い合わせ：GEN事務所まで

GEN自然と親しむ会

武庫川と廃線跡の自然

早春の箕面は、たくさんの方が参加され、ご好評をいただきました。今回、再度石原忠一先生にご案内をお願いして、ハイキングコースとしてもポピュラーな旧国鉄福知山線跡を生瀬から武田尾まで歩くことにしました。

日時：6月2日（日）

集合：10時にJR生瀬駅

もちもの：弁当、水筒、懐中電灯

参加費：大人500円、中学生以下300円（保険料ふくむ）

小雨決行

歩きやすい靴でご参加ください。

定員：30人

申込み：5月28日までにGEN事務所まで。定員に達し次第締め切ります。

グリーンアースダイヤルで
黄土高原に緑を！

先月ご紹介しましたKDDの“グリーンアースダイヤル”、さっそくたくさんの方にお申し込みいただきました。登録料・手数料など利用者の負担はい

っさいなして緑化協力ができます。たとえば1,000円の通話で、マツの苗木50本分に！ お申し込みご希望の方は、GEN事務所までご連絡ください。

GEN関東交流会のお知らせ

講演会や報告会、自然と親しむ会も関西ばかり、おなじ会費払ってるのになんか損したみたい...と、思った関東のみなさま。春のワーキングツアーから帰ってきたばかりの上田信さん（立教大学教員）と工藤寛之さん（法政大学生）が、関東での交流会を企画してくれました。GENの会員も、そうでない方も、オープンに、いろいろ語り合いませんか。交流会のあとの2次会も楽しみ!?

日時：5月25日（土）15時～18時くらいまで

場所：立教大学・池袋キャンパス、5号館1階、第1会議室（池袋駅西口より徒歩7分、有楽町線要町駅より徒歩6分）

内容：

・『95年夏、96年春の黄土高原ワーキングツアーを振り返って』上田信ほか

・参加者によるフリートーク

参加希望者は、前日（5月24日）までに下記までご連絡を（不在の場合はFAXか留守電にメッセージを）

【連絡・問合せ先】 上田信 TEL/FAX. 03-3838-1695

箕面探鳥会のご案内

森を渡る風、葉ずれの音。朝の冷気に身をおき、鳥たちのコーラスを聞く季節がやってきました。

日時：5月25日（土）～26日（日）

場所：箕面 勝尾寺境内

日程：

- 25日 19:30 勝尾寺応頂閣に集合
- 20:00 鳥の話・班分け
（講師 石原忠一先生）
- 22:00 就寝
- 26日 4:00 起床、すぐ探鳥会
- 7:30 朝食
- 8:00 まとめ、9時解散

もちもの：防寒具、雨具、筆記用具、双眼鏡（ある人）

注意：雨天決行、25日は夕食をすませて集合

参加費：大人 4600円 中学生以下 3600円

申込み：5月17日までに下記まで

〒533 大阪市東淀川区瑞光4-8-33
豊中生物同好会事務局 中川均さん
TEL. 06-328-7634

土佐小夏をどうぞ

「はじめてブンタンを食べました。おいしかった」という声をいただきました。ブンタンは南国の柑橘、本州ではちょっとめずらしいですね。

こんどは小夏のシーズンです。さわやかな初夏の味をどうぞ。

小夏（低農薬有機栽培）

LM混 5kg 3,500円

S・2S混 5kg 3,000円

送料別途（関西620円、その他の地方はお問い合わせください）

出荷は4月20日から5月下旬まで。

お申し込みは

〒781-74 高知県安芸郡東洋町甲浦
田中隆一さんまで

TEL/FAX. 08872-9-2500

売り上げの一部をご協力いただいているので、ご注文の際には“GENの紹介”とひとことそえてください。

編集後記

93年夏、はじめて山西省に行ったときには、食事ははっきり言っておいしくなかったんです。にんにく、とうがらしをふんだんにつかった独特の味つけで、ほとんど食べられない人もいました。それがなぜか、去年ぐらいいからみなさん「おいしい」「おいしい」と食がすすんで。どうして???

今年の春は、必殺山西省ダイエットに失敗してしまった私です。（東川）